



稲川 貴之 議員 (民主)

文化芸術・スポーツのまちづくりについて

①基本構想に、「伝統と文化の継承と発展を図る」と書かれている。伝統文化には目に見えない部分と埋もれている部分があるが、区は、今後埋もれている伝統文化をどのようにして発掘していくのか。

②品川歴史館にある書籍「郷土品川」には、品川の25の民謡の歌詞が書かれている。区は、地域に多くの民謡が存在していることを認識し、調査研究を行ったことがあるのか。今後区は、これらの民謡を創造し、まちづくりのコンテンツとして地域に根づかせる考えがあるのかどうか。また、区内の民謡団体は無数にあり、にぎわいのまちを形成するために必要な人材と考えるが、区の見解を。

地域振興事業部長

①広く区民の方々から、これまで明らかになされていない歴史や言い伝えなどを収集し紹介していくことなども重要だと考える。②昭和40年代に区が調査し刊行した品川の歴史に関する冊子の中で、大崎、荏原と大井地区に伝承するものについて紹介をした経緯がある。

地域の方々による民謡民舞大会等は、品川をふるさととして思う郷土への愛着を高めつつ、まちのよさを次代に伝えるもので、これらを担う方々の役割は大変重要だと考える。

環境対策について

伝統文化である民謡の継承を図り、まちのにぎわいにつなげるよう努める。

①本年4月13日から5月29日に募集した環境共生住宅助成事業について、遮熱性塗装への応募があまりにも少ない。省エネルギー型設備設置工事の助成予定額は379万3千円、断熱・遮熱化工事は8万4千円であり、助成予定総額の約2・2%の助成比率だ。⑦なぜ、応募期間の期日を限定したのか。⑧どのような周知を施工業者や区民に行ってきたのか。⑨安価な断熱・遮熱化工事への応募が多くなったときに、助成総額の比率が省エネルギー型設備設置工事に傾いてしまうことを危惧する。

二つの工事を分けた助成枠の創設を。②区が所有している施設や道路等に遮熱性塗装を施工し、区民が体感できる環境対策を行うべきと考えるが、今後の取り組み等を伺う。

防災まちづくり事業部長

①できるだけ公平に助成できるように、期間を設定している。その期間内で予算を超える応募があった場合は抽せんで助成対象を決定しているが、よりよい方法を検討していく。④区内の建設組合4団

体からなる品川区住宅センター協議会を通じ、広く周知してきたなど。⑦太陽光発電システム設置など、他の対象工事の実績を踏まえ、区民の方が最も利用しやすい形を考える。⑧西品川保育園や第四日野小学校の屋上に遮熱性塗装を施工しており、その効果の状況をホームページ等で公開し情報提供しているなど。今後とも適地を選定しながら事業を拡大する。

区民との協働について

①基本構想に「区民と区との協働で、『私たちのまち』品川区をつくる」とあるが、今までの町会・自治会の活動の中に協働は存在しなかったのか。今回の基本構想において、さらなる協働を求めるものなのか、区の見解を伺う。

②地域の人々が集う会館や公園がない町会・自治会に今後どのような形でアドバイスやバックアップを行っていくのか。会館用地、公園用地の確保も含め区の見解を伺う。

区長

①長年にわたり区政における重要な協働の担い手として地域福祉やまちづくりに大きな役割を果たしてこられたと考えている。構想の実現に向け、町会には協働の担い手として、なお一層重要な役割を果たしていただくとともに、協働の輪をさらに大きく広げ、地域全体の力を生かしていくことが重要だ。②会館を建設する際には、23区トップレベルの助成を行っているなど。公園・防災活動広場などの活動拠点の確保にも努力する。



大沢 真一 議員 (自民)

「家庭の社会化」について

児を区がかわって行うのではなく、親育ちを積極的に支援し、子どもが健やかに育つ家庭環境を整えることなど。また、介護保険制度は「介護の社会化」を支える中心的な制度だが、今後は公的サービスだけでなく、地域での支え合いも重要であり、自助・共助・公助を適切に組み合わせることにより、住みなれた地域の中で在宅生活を送れるように支援していくことが必要だと考えている。

区組織について

①組織を有効に成立させるための取り組みがどのように行われているのか。②業務内容が年々複雑多岐になっている今日、業務命令の一元化と職能の分化の徹底を図っていく必要があると考える。区における望ましい組織運営のあり方は。③社会環境が目まぐるしく変化する現在、新しい問題も次々に起こってきている。多元的、複合的な組織による対応が必要だと考えるが、見解を。④区が考える効率的な組織とはどのようなものか。⑤組織にとってコミュニケーションは非常に重要だ。区のコミュニケーション力の向上に向けた取り組みはどのようなものか。

区長

①事業部経営会議の開催や庁内ネットワークの活用を通して事業部間の連携・協力体制を構築するなど、組織が有効に機能するための取り組みを進めている。②社会経済の変化や多様化する区民ニーズに的確に対応するには、柔軟で機動的な組織運営が必

要と考える。③複数の分野にまたがる課題に対しては、プロジェクトチームの設置なども含め、事業部間での密接な連携・協力を図ることが重要だ。④組織目標の達成に向け、意思決定を迅速に行い、横断的な課題にも組織間で連携して円滑に対処できること、また極力シンプルかつスリムであることが必要だ。⑤職員研修において、説明力や折衝力アップなど、コミュニケーション能力を向上させる内容を取り入れ、各職層研修で実施をしているなどだ。

新型インフルエンザについて

①現在流行している弱毒型のインフルエンザ対策として、区では、感染症対策本部会議等を設置し、インフルエンザ

防止のためのさまざまな取り組みを行っている。しかし、小中学校で学級閉鎖が続くなどしており、早急な感染拡大防止策を講じる必要がある。区では、どのように国や都と連携をとり新型インフルエンザへの対策を立てているのか。②品川区独自の取り組みを伺う。

総務部長

①これまで24時間の相談体制を相互に協力して実施するなど連携を図ってきた。特にこれからの重要課題であるワクチン接種については、区が区民への情報提供や相談の役割を担うことから、より一層の連携が求められる。②保健衛生部門だけではなく、危機管理部門、広報部門や各施設の所管部門で全庁体制を構築したことに特色があるなどだ。

採択し、報告を求めた陳情について

平成21年第2回定例会で採択し、区長に報告を求めた陳情については、次のとおり報告があったので、お知らせいたします。品川区役所第二駐車場の運営・管理に関する陳情。区役所第二駐車場の障害者専用駐車場の前が荷物が置いてあり安全に降れない。そのような状況を改善すること。(第9号) 来庁者専用障害者専用駐車場周辺に置いてある荷物については、ただちに撤去し、その後、所有者を特定し荷物の処分を行いました。区役所第二駐車場の障害者専用駐車場の大半は職員用となっており、一般の障害者が不利益となっている。そのような状況を改善すること。(第10号) 現在、区職員で、自動車通勤している者のうち下肢の障害などにより専用駐車場を必要とする者が8名おり、そのため8台分の駐車場を確保してあります。区職員が使用している駐車場については、職員専用としており、一般の方の利用は考えておりませんので、ご指摘のとおり標示している「障害者マーク」について、消去いたしました。また、そこに駐車している車両には区の駐車許可証を掲示することとなっておりますので、掲示することを徹底いたします。来庁者専用駐車場については、現在、第一庁舎の耐震(免震)工事を行っており、第二駐車場に一般用56台、障害者専用駐車場3台を設置しているところですが、一般用がほぼ満車状態が続く中で、障害者専用駐車場については余裕がありますので、工事期間中はこのままの台数を維持し、工事終了後、第一駐車場も含めて障害者専用駐車場の台数、設置場所について見直しを行ってまいります。区役所第二駐車場の障害者専用駐車場の前が荷物が下ろし用駐車場となっており一般の障害者が不利益となっている。そのような状況を改善すること。(第11号)